

銀座百点・No. 259・目次

銀座の草分けマダム……………高川雪子
 | 回想のカクテル |……………野中花志(へ)

画廊案内……………(七)

お八つの交響楽……………向田邦子(八)

玉露づくりの名人……………葉月とみ子(三三)
 | 茶をつくる家 |……………(三三)

お買物アラカルト……………(三四)

おんな一人……………上坂冬子(三五)

築地にいた頃……………秋元松代(三五)

銀座紳士録抄……………岡富久子(三六)

清光堂(銀座ファイ)……………(三六)

銀座でいちばん古いバ……………杉山吉良(四〇)
 | カメラ |……………(四〇)

ぜん屋(銀座ファイ)……………(四七)

マイク昔ばなし……………松沢知恵(四八)
 | 松沢知恵さんに訊く |……………(四八)

横断歩道……………(五二)

妄想趣味……………島田修二(五七)

銀座戯評……………横山泰三(六〇)

今月の映画……………萩昌弘(六三)

鍵……………水野正夫(六六)

祖父・谷善之丞のこと……………谷善樹(六九)

銀座百店会案内……………(七二)

華麗な新劇役者……………仲代達矢(七六)
 | 銀座サロン |……………(七六)

編集夜話……………(七六)

銀座俳句……………五所平之助選(七八)

表紙・風間完 カット・島田しづ(在バリ)



simada

銀座の草分けマダム

回想のカクテル

泉鏡花と水上瀧太郎

西川 高崎さんの「ルバン」は、創業は
何年でいらつしやいますか。

高崎 昭和三年です。西川さんの「サン
スーシー」は？

西川 うちは昭和四年です。
野中 あたくしとこの「セレナーデ」



ル	バ	ン	高	崎	雪	子
			たか	さき	ゆき	こ
サン	ス	ー	西	川	と	志
シー			にし	かわ		し
セレ	ナー	デ	野	中	花	
			の	なか	はな	

もそのくらいいでしょ。あたくし、ちょ
つと「ルバン」にいてそれから土橋で
はじめてお店もったんですから。

高崎 そう、二、三年あとね。

野中 あたくし、こういう世界に入りま
す時に、渡瀬淳子さんていらしたんで
す、沢正の女房。あの方が「ジュン」
という酒場を出しておられたんです



★右より高崎留子、野中花、西川と志のみなさん。
右頁は若き日の高崎さん（右）と西川さん。

よ。あたくしが、まアいろんなことでこういう世界に入らなくちゃならない時に淳子さんにご相談したら「おくさん、あなた、そんな女給さんなんかになっちゃいけません」ていわれたんです。しかし、背に腹は替えられませんかでしょう。そのとき、あたくしの女学校の先輩に、「サイセリア」のお京って有名な方がいたんです。そこへ行きましたらね。今始めたばかりの「ルパン」ていうとってもいいお店がある、そこはお上品でいいから、そこへいらっしゃい、といわれたんです。

高崎 そうでしたねえ。

西川 ジャア、もうおたくもじきに五十

年ですか。

高崎 うちが来年でもう五十年ですもの

ねえ。(笑声)

本誌 「ルパン」は、泉鏡花もごひいきだったんですってねえ。

高崎 はい。こんどの改築でも、もともとおりにつくりましたけど、店に小さなボックスがあるんです。ちょうどあたくし、なんかの用で早く家を出ましてお店へ行こうと思いましたら、ちょうどむこうから泉先生が歩いていらっしゃるんです。「泉先生じゃございませんか」といったら、「ア、きみ、店を始めたときいたけれども、どこだい？」っておっしゃいましたね。「行ってみようよ」とおっしゃって、寄ってくださったんです。その小さなボックスへチョココンとおすわりになりましたね。キセル出しなすって一服吸って、なんか「カクテルくれ」っておっしゃるんです。

西川 泉先生が……。

高崎 ええ、ところが先生、水がきらいでしよう、それから、ビルディングがきれいで、犬がきれいなんですよ。ですから水使わないで作りました、ということにして……。

本誌 冷たいカクテルをさしあげたんですか。

高崎 はい、それを「おいしいな、なかなか」とおっしゃって召し上って、ご機げんよくお帰りになったわけです。そうしましたら……そのあとがあるんですよ。水上瀧太郎さんがそれをお聞き

になったらしくて、「先生はビルディングおきらいなのに、おつれしたりしてけしからん」と、「岡田」で大へんお叱りを受けました。(笑声)

西川 そうですか。

高崎 それからもう一度ぐらいいいらつしやいましたかねえ。

お客さまも四代目

本誌 しかし「ルバン」さんは昔から、ずいぶん文壇のごひいきが多かったようですね。

高崎 ええ、昔はねえ、絵かきさんと、文壇の方にほんとにごひいきにしてい

ただきましたね。

本誌 お店で、林忠彦さんが撮った太宰治のいい写真がありますねえ。

高崎 はい。それから、うちで、一ばん古いお客様つてのが、昭和四年からおみえになっていらつしやる方なんです。

本誌 ほう、いまだにずっと……。

高崎 それは、うちは特殊というとおかしいですが、東大の病理の先生が昭和四年頃からおみえになって、その方の先生をお連れ下すつたんです。それから「医人会」という会を一年に一回、土曜日に、会報を出しましてみなさん方だけの集まりをさせていたただいております。

野中 あたくしのところでも、四代目というお客さまが、できました。

西川 お祖父様に、お父様に、息子さんにお孫さん、というわけですね。

(笑声)

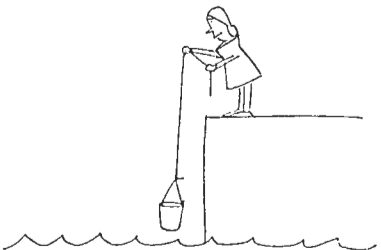
野中 ええ、お孫さんだつて三十七くらいですもの。でも、お祖父様はお亡くなりになりましたけれども。

西川 昭和のはじめには、バーというのは、数が少のうございましたね。

高崎 うちが始めた時には、三軒くらいでしょ、きつと。「サイセリア」「アオイ」といううちに、京橋の……野中 「ガストロ」それから日本橋に「グライウス」

高崎 それはだいたいぶあとよ。「ポルドー」は、うちより二年くらい後です。

塩値上げ



銀座
戯評

横山泰三

なんか、この間、サンケイ新聞に出たんですが「古い店」というので、逆に書いてありましたけれども。

本誌 新橋の人がはじめたんだそうですね、「ポルドー」というのは。

西川 あそのの「お玉さん」でね……。

野中 あたくし、思い出すままにちょっと書いてきたのよ、昔のね。「ジヨコング」って知っていらっしやる？

西川 きれいな店でしたね。

野中 そのあとですね、「ジャボン」「レッドテープ」ね、「ブーケ」「メーゾン・トミー」あれ、早かったですね。

高崎 そのおとみさんが、戦後見えませんでしたよ。

野中 あたくし、今でもお付き合いらるの。今、病気で、おみ足が悪いのよ。ときどき電話で話しています。

高崎 それから「グラウス」のマスミさん……。「エスパニョール」というの、なすってましたね。ちょうど七丁目くらいでした。ちょっと、ハイカラで、利口な方でしたね。

野中 昔の「アムステルダム」ね、あのマダムが夏に……びっくりしたの。骸骨を染めた着物、卒塔婆というんですか、あれをここに（左肩）ここに（右下に）骸骨のある意匠を。

西川 それはまた、ずいぶん奇抜な……。

野中 ええ、それを着て見せに来たわけなの、あたくしの店に。骸骨のある、地がネズミ色でうす気味悪かったらありゃしない。いろいろな方、いましたね。でも、昔のほうがいいわ、みんな

いい方で。

西川 それぞれ、個性がありましたねえ。

谷崎潤一郎の命名

本誌 「サンズーシー」というのは、はじめから交詢社ビルにあって、やっぱり交詢社のお客さんが多かったんですか。

西川 はい、初めはそうでした。メンバークラブの方が多うございました。それでやはり作家の方々もおみえになりましたね、それで「サンズーシー」という名前は谷崎潤一郎先生がお付けになりましたの。ですから、谷崎先生には終戦後も「アア焼けなくてよかったですねえ」なんて、二、三回おいでいただきました。

窓・同窓会には四〇名様位迄承ります

名物 ひれかつ 銀座クリル

GINZA GRILL

本店・銀座3の8の5・ギンザ松屋裏三本目通り・TEL(562)0881 (大代表)
支店・西銀座デパートお好み食堂内・TEL(566)4103
支店・銀座4の6の11・ギンザ三越隣地権・TEL(561)4847

本誌 そのご先代は、どういふ方だったんですか。

西川 ガス燈の時代にビノクの洋服で、ニューグランドでダンスを踊ったという程のハイカラな方なんです。西川千代と申しましてね、フェリス・ミッシェン出の方でしたね。

本誌 いわゆる銀座のバーで一番初めというところでしょう。

西川 一番初めというのと、どこでございませうか。

野中 あれじゃないの、海軍の方がしていらした京橋の第一生命の……。

高崎 あそこは何といたしましたかね、見学に行つたことありますよ。ほんとに狭いお店でした。

野中 ええ、もうご主人一人。海軍大佐かなんかのね。

高崎 早いんですよ、時間が。六時か、七時には閉めておしまひになる。

西川 しかし、夢の如くですねえ、今、三十年、四十年……。

野中 おなつちゃんところが五十年でしょう。あたしんところだつて、足かけ四十七年ですものね。(笑声)

高崎 でも、あなたよくおやりになつてるじゃない。

野中 あたくしは、今のほうが青春よ。もう、いいたいことがいえるし。いつも恋愛しているのよ。相手が二十代の方だと、あたくしも二十代になるのよ。三十代、四十代と相手に合わせてね。子供のおりませ時は子供に引っぱられ、母が生きていれば母に引っぱら



お子様のお洒落な
レーンコート……

あなたとお子様のおしゃれの店

ギンザのサエグサ

本店 銀座7丁目ヤマハホール前・TEL 573-2441-2
支店 渋谷・池袋・自由ヶ丘・名古屋・仙台

れ、上下にこんなになつてちごこまつてましたけれども、今はもうね、精神的に大恋愛してるの。(笑声)

西川 たしかにそれ、わかるわア。

野中 自分ひとりの中で、思うだけなんですけどね、いちいちそんなこと口に出していいませんよ、軽べつさめちゃいますから。ですから心の中で一人で大恋愛してるの、でも、楽しいわよ。(笑声)

高崎 だから若いのね、あなたは。(笑声)

竹久夢二のラブレター

野中 あたくし、きょう、昼間の銀座あるいて、資生堂見てびっくりしちゃうた。

高崎 あたくしもびつくりしちゃった。
野中 変っちゃってね。夜は遅く、酔っばらってブラブラしますでしよう、昼間の銀座は知らないんですよ。何しろ、あたくしが、一番最初知った資生堂は、大正八年頃でしよう。まだ、袴を付けて女学生時代。だから、その頃の資生堂のほうに頭にありますわ。両側になくて片っ方だけで、こつちに薬品売って、片っ方の所にコーヒートか、アイスクリームをのませてくれましたね。お二階が、今でいうギャラリイみたいになっていて、なつかしいですね、あの頃。

西川 大正時代の銀座の通りっていったら、木レンガでしよう。あれが震災の時に焼けたんですからね。

野中 なんか、情緒がありましたね、柳がね。あたくし、そんな娘時代に竹久夢二にラブレターもらったわ。それであたくし「お金になるからこのラブレター売っちゃって飲もう」なんていっ

たら、娘が、もつたいない、もつたいないってしまいきんじやった。(笑由) 本誌 ほう。

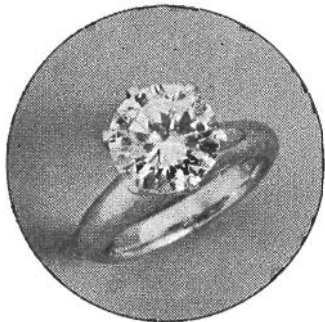
野中 日本橋の榎原の封筒で、それも先生のデザインで、墨で書いてあるんです。大正年間にアンナ・パブロワって、来たでしよう。その時の園遊会が三島子爵のおうちであって、その時にあたくしを見たらしい。その時のこと、ちゃんと書いてあるんです。これは大事にとつてあります。

西川 それはいい記念ですねえ。

高崎 昔の旦那衆というのは、よく芸者衆つれて、バーにみえたもんですけど、そういうこと、絶対なくなりましたね。

西川 それから夜おそくまで、屋台でけっこうおいしい食べもの屋さんが出ていましたね。物価の話するとあれでございませけれども、物価がすいぶん……今から考えますと、今昔の感がございますね。

名品に刻まれた
ミワのころ



宝石の名門



銀座・みゆき通り

東京都中央区銀座6-7-2 ☎572-5011代

野中 だってあの頃、ウイスキーがみんな洋酒でしょう。外国物で、一杯五十銭ですもの。仕入が四円八十銭で。

西川 ですから一円のチップをいただくと、もう大へんありがたいことで。

野中 二円いただいたら、大したもんですよね。

高崎 「あのお客様は二円バンの方ですよ」なんていってましたものね。(笑声)

ステンド・グラス

野中 うちの店はやかんで……もう、高いもの置かない。ご家庭でピフテキやお刺身は召し上げればいいのよ。うちは雰囲気買っていたたくさんですから、メザシとアブラゲとか、それでいいんですよ、タクアンとか、そんなもので、あとは雰囲気を買っていただくんです。

西川 そう、そう、アブラゲとかね。ほんと、いいわア。立派よ、あなた。

本誌 「ルパン」さんは今度ビルが新しくなっても、前の店の雰囲気そのまますま生かしたんですか。

高崎 それがあたくしの執念なんです。結局あの路次は、ま、うちが開拓したようなもんでございましてね。ですから同じ場所、昔と同じような雰囲気の店を再現させたいと思ひまして、それで二年四ヶ月待ちちゃったわけなんです。

西川 お客様は落着くでしょうね、昔とちっとも変わらないということ。

本格的炭焼きステーキ

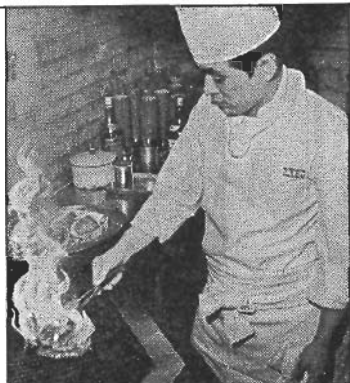


御集会は……

小人数様より60名様まで楽しい御宴席や
クラス会等々に御気軽に御問合せ下さい
ティーパーティー(御1名様)…¥1,000より
ディナー " Aコース¥2,000
 " Bコース¥3,000
 " Cコース¥4,000
ビュッフェパーティー… ¥2,500より
その他いかようにもご利用下さい

銀座 清月堂・ライクス

銀座 5-9-15あづま通り
TEL 1F:571-2037 2F:573-7971



高崎 はい。

本誌 「サンスーシー」さんも、昔どおりのステンドグラス、あれがやはり特色でしょうね。

西川 そうでございますですね。表に面したほうがドイツのステンドグラスで、中にございますのがイギリスでございます。

壁のらくがき

本誌 野中さんとは、壁の落書きがご自慢だとか。

野中 自慢というわけじゃないんですよ、みなさん勝手にお書きになったんです。それで、偉そうに「俺に書かせろ」なんておっしゃる方には絶対書かせない。(笑)ね、ね、お付き合ってもらものは歴史でしょう。だから古い方とかね……ずいぶん「書いておいていただけだよかった」と思ってお方は逃がしちゃったし、またお亡くなりになっちゃったんです。山田耕筈先生は車椅子でいらして、ちゃんと書いてくたすったの。前の土橋の店の時には、エムデンというドイツの軍艦が入ったんです。その時のキャブテンが来て、やっぱし解に書いていったの。土橋の店から新幹線ができるために、いまの西銀座へ移りましたでしょう、それからでももう十二、三年経ちますけ

れども、なつかしい方がずいぶん亡くなりましたねえ。

本誌 役者と、ずいぶんお付き合いが多いようですな、新劇の。

野中 娘が俳優座におりますでしょう。

それに孫もやつと、こんど俳優座に入りましたのよ。それ、男の子ですけど。あたくし女学校時代、有島生馬先生や、山田耕筈先生にお目にかかって、メーテル・リンクの「タンタジールの死」なんかやりましたのよ。そのとき、その主題の音楽を山田耕筈先生がして下さったんです。この間、土方梅子さんがご自分の自伝をおだしになりましたね。その中にあたくしが、かわい顔してるのが出ていますよね。もう、カボチャみたいな、こんなに太ってるの。(笑)十五、六の時ですものね。

西川 なつかしいでしょう。(笑)

永井荷風散人

和装小物専門の店

銀座四丁目

津田家

電話 (561) 五五七六
五八八五

御盛装外に出に和装、フリンジャーを

本誌 銀座の女の人のエブロンなんとい
うのは、いつ頃まであったんですか。

西川 そうですねえ、「サロン・春」の
方々もしてましたよ、まだ。

高崎 そうでしたかしら。「サロン・春」
はしてなかったような気がするけど…
…。

野中 絶対してない。ま、ラウンド・ガ
ールだけよ。

高崎 だいたい、女給のエブロン姿とい
うのは、昭和二年くらいまでじゃあり
ませんか。

本誌 そうですか。「ライオン」なんてい
つ頃まであったんだらう。カフエー全
盛時代というのは「ライオン」と「タ
イガー」が対立したわけでしょう。

高崎 そうです、そうです。
西川 どちらのほうが早くなくなりまし
た？

野中 同じくらいじゃないですか。
本誌 永井荷風のものを読むと、銀座は
カフエーの全盛時代でしたね。

高崎 戦後、永井荷風先生みえましたた
よ、うちへ。買物かご下げて。で、う
ちの帰りに浅草へいらしたんですね。
どうもそれがやみつきになって「踊
子」お書きになったんじゃないかと思
いますけど。あれから毎日お通いにな
ったらしいですね。

本誌 まア、むかしは、女の人も偉い人
がいたけれども、お客も面白かった人
が多かったんですね。

きもの

小もの

伊勢 由よし



- 通 8丁目資生堂裏
- 4階 5丁目銀座コア
- 5階 ラザ
- 4階 プラザ
- 4階 栄メルサ
- 2階 栄メルサ
- 4階 難波高島屋
- 3階 泉北パンジョ